

広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者支援ミーティング in 関東 報告書

平成30年1月
広域避難者支援連絡会 in 東京

- 29年4月、中央ろうきん社会貢献基金が実施したサポート助成制度の報告会にて、対象となる関東圏内の避難当事者団体が集まり、団体紹介と意見交換が行われた。各都県域においては、これまで当事者団体を対象とした意見交換の場を設けてきているが、**都県を超えた情報交換の場はそれまで十分に持たれてはいなかった。**
- 震災から6年半が経過しようとする中で、仮設住宅から**次の住まいへと都県を超えた避難者の移動が盛ん**になってきている。こうした中、避難者の状況や当事者団体の有り様もまた大きく変わってきており、これらの状況について、**都県を超えて互いの状況を知り合う場**を設ける必要性が出てきている。
- また、状況を知り合うだけでなく、**都県域を超えて当事者団体がつながる**ことで、**広域で取り組む課題があるのかどうか**、また、今後、支援団体が**どのように当事者団体をサポートできるのか考える場**としたい。

- 1 日時 平成29年11月29日（水）午後2時00分～4時40分（午後1時30分開場）
- 2 場所 東京 YWCA 会館カフマンホール
東京都千代田区神田駿河台1丁目8-11
- 3 参加者数 36団体57名
うち、当事者団体20団体30名
支援団体16団体27名（行政含む）
- 4 内容



プログラム1 避難当事者団体からの事例報告

コーディネーター 広域避難者支援連絡会 in 東京 岩村（中央労働金庫）
パネリスト ふくしまあじさい会 志賀 仁 氏
東北の絆サロンFMI会 木幡四郎 氏
" 武田恒夫 氏

<志賀氏 報告内容>

- **避難者のみの団体として設立。**孤独感のない環境を作ろうと、当初は90人の参加があったが、現在は常時40人前後の参加。
- ①「定期交流会」、②「ボランティア」、③「地域交流」、④「研修旅行」、⑤「農業体験」が活動の**5本柱で年間40回以上集まっている。**
- 地域とのつながりに関しては、もともとは花見に招待されていたが、いまは避難者も梅の木のオーナーとして**地域に主体的に参加**するようになった。梅の収穫・さつまいも堀りなどを**地域住民と一緒に**行えるようになった。

<木幡氏 報告内容>

- 浪江に帰還した人もいるが、病院のこと、周りに人がいない、買い物へ行く足がない等の悩みを聞く。今後、帰還した人が、ノイローゼや孤独死につながることを危惧している。
- 仮設住宅の供与終了に向けて焦って住宅を求めても、移動先で新たな生活になじめず、地元のサロンに戻る人もいる。サロンの維持は検討課題。
- 町田からバスを出して、茨城の避難者の交流会を行った。茨城県のふうあいネットに協力してもらった。

<武田氏 報告内容>

- 避難者の中では岩手県出身者が非常に少ないため、同郷の人に会いたいという気持ちでいっぱい。その気持ちで様々な避難者サロンに出かけているが、互いに励まされていると感じる。
- 岩手県は支援員がいないので、自分自身で動いていくしかない。町田から荒川や神奈川にも頻繁に通っている。いまはできることをしているだけ。誘い合って輪が広がってきている。



プログラム2 グループディスカッション

(1) 当事者団体アンケート結果の報告

- 広域避難者支援連絡会 in 東京と東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) とで実施した「広域避難 当事者団体アンケート」の結果を報告しました。

(2) グループディスカッション

- ディスカッションの内容は、別紙。



- 5 主催 広域避難者支援連絡会 in 東京
東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

- 6 問合せ 広域避難者支援連絡会 in 東京
(事務局) 東京ボランティア・市民活動センター 担当: 加納、谷口、若林
電話 03-3235-1171 FAX 03-3235-0050 メール kouikihinan@tvac.or.jp

タケダ・赤い羽根

広域避難者
支援プログラム

以上